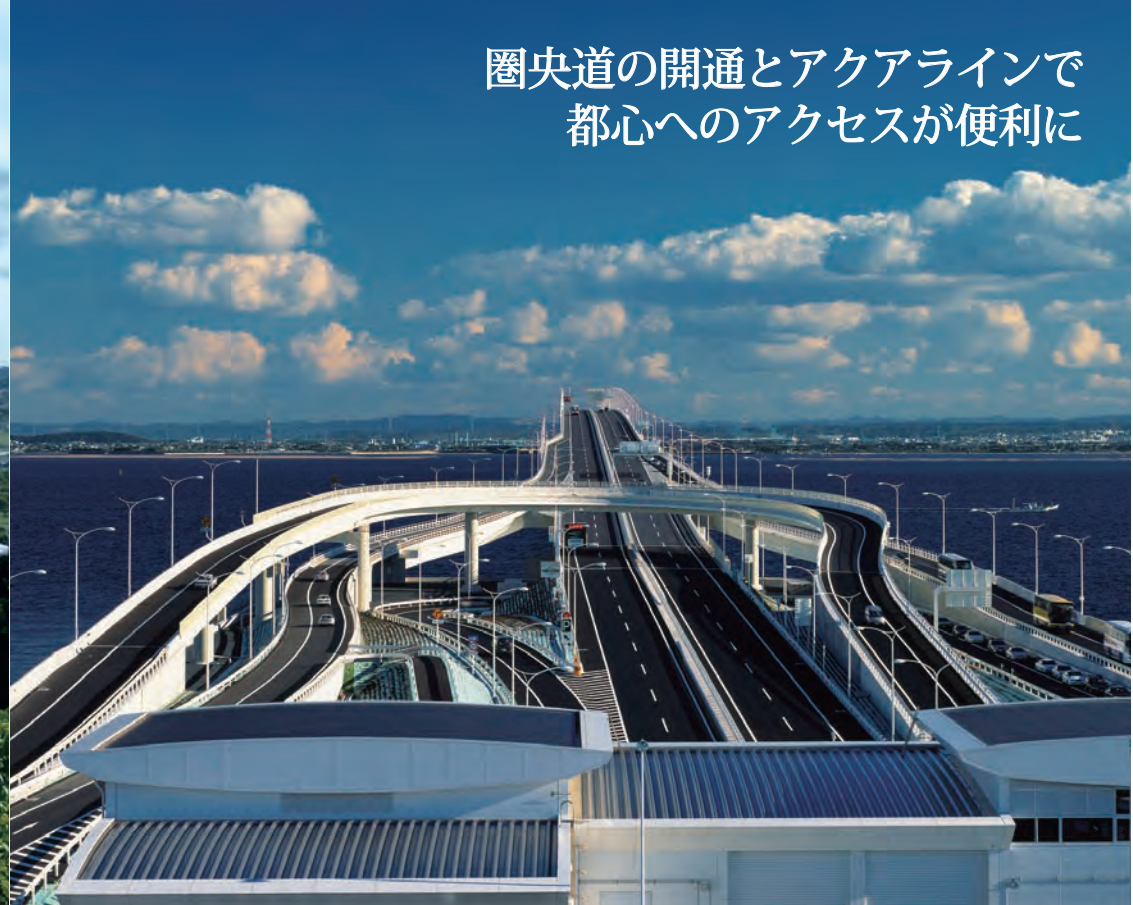


きらきら いきいき
「いすみ」な暮らし
ガイドブック

空、海、里山。風のささやきに
 移りゆく季節を感じる、いすみ市。
 家族が自然の中で生き活きと
 暮らせる「まち」です。



圏央道の開通とアクアラインで
 都心へのアクセスが便利に



東 京都心から約2時間、太平洋に面した千葉県、外房の地にいすみ市はあります。夷隅川が作り出すなだらかな丘陵地と田園地域では「いすみ米」で代表される農産物の生産、そして、親潮、黒潮が沖合で交わる海域ではイセエビ、タコなどの豊かな魚介類の採取がいすみ市の基幹産業として、人々の暮らしを支えています。こうしたいすみ市の自然には、人々を招き入れる優しさがあります。

アクアラインで
 京浜エリアまで **2時間**

	軽自動車	普通自動車
通常料金	2400円	3000円
ETC車	640円	800円

(2010年2月現在)



JR線で
 都心まで **70分**

【大原～東京間の定期代 65000円 / 1カ月】
 JR外房線 特急わかしおを使用 (2010年2月現在)

▶いすみ市へのアクセス

- 電 車：東京駅→大原駅 (約70分)
- 車：車1：京葉道路→千葉東金道路 (東金IC)→東金九十九里道路→九十九里有料道路→国道128号 (約2時間)
- 車2：東京湾アクアライン→圏央道 (木更津東IC)→国道409号→国道297号→国道465号 (約2時間)

CONTENTS

- P02～03… いすみってこんなとこ
- P04～05… いすみの文化や行事
- P06～09… 先輩移住者インタビュー1
- P10～11… 市長と市民の「子育て」座談会
- P12～15… 先輩移住者インタビュー2
- P16～17… 移住について「Q&A」と「田舎暮らしのコツ」
- P18～21… 市内便利情報、「いすみ」な暮らしのチェックポイント

いすみで働く、育てる、つながる 地域の伝統や慣習を理解し溶け込みながらも、

様々な活動を通じて地域の新たな活力になる。

移住を考えると、ちょっと？

「生活の基本は働くこと、でも、いすみでそんな場所があるのか不安」というのが移住を考えている若い世代の率直な心境でしょう。また、現役生活に一区切りつけた定年世代の方々でも、「田舎暮らしは良いと思うけど、土地になじむことや、古い慣習に合わせるのはどうも」という不安があるのではないのでしょうか。

確かに、いすみ市は「就職先」は非常に少ないですし、地域の伝統的な行事への参加や、町内会のお付き合いは求められます。それでも先に移住してきた多くの方々は、それらの不安や、心配とは別に「新しい自分たちの生活」を築き、充実した「いすみ暮らし」に満足されています。

【農でつながる生業を求めて】

いすみ市内の古民家に住み、敷地内の納屋を改修して「パン屋 タルマーリー」を開業した渡邊夫妻は、自家製天然酵母にこだわりの、できる限り地元産小麦を使用するなど、地域の農を基盤としたパン作りを追求し、多くのファンを獲得しています。

夫妻が中心となって立ち上げた市民団体「from I project」は、農産物、食品、クラフトなど、房総の作り手たちによるこだわり市「ナチュラルライフマーケット」を主催。

当初のマーケットでは、出店者のほとんどが移住者だったものの、徐々に地元の作り手も巻き込みながら、盛んな催しに成長してきました。

いわゆるフリーマーケットとは一線を画し、環境保全や地産地消を求める厳しい出店基準を設け、田舎ならではの価値観を提案する新しいマーケットとして注目を浴びています。

田舎での職探しは、地域の資源を活かしながらかく続けられる「天職」を探すことかもしれません。そして、このようなマーケットは、自分の作力、売力を試す良いチャンスとなるでしょう。

【地域での体験を生かした起業】

ブラウンズフィールドは今や、いすみ市の人気スポットの一つになっています。農的生活体験やマクロビオティック料理講習、カフェや宿泊施設、季節ごとのイベントなどを通年行っています。また、国内外から多くの若者が、ここでの生活を体験しようと集まってきます。エバレット・ブラウンさんと中島デコさんご夫婦が移住して、友達に農作業などのお手伝いを募ったことが始まりです。ここでの体験を生かして、独立して市内で起業する例もあり、地域の資源を活かした新たなビジネスが生まれつつあります。



一人ひとりの顔が見えるコミュニティ

都会でも田舎でも人とお付き合いには、礼儀とカルールがあるのは同じです。人口42,000人と、程よい規模の田舎であるいすみ市では、地域ごとの人々のつながりは強く、お互い助け合う伝統が根付いています。道で会えば、子どもたちは遠くからでも大きな声であいさつを交わす、これが普通。もちろん名前や顔を知らなくてもです。

こういう伝統に触れると、こちらからも自然と声が出るようになります。それが、いろいろな催しや、日常生活の中で多くの人と触れ合うようになると、目と目を合わせたお付き合いが始まり、例えどこのだれかは知らなくても、知った顔同士の関係になります。

【子育て環境「千葉県一」を目指すまち】

生活を成り立たせるためには働くことと同時に、家族が生きて暮らせる環境が必要です。いすみ市もいわゆる少子高齢化が進んでいます。人口もわずかながら減少傾向にあります。こうした状況の中で、いすみ市は若い移住者世帯が増えることを歓迎しています。

そのためにさまざまな子育て支援策がありますが、中学生までの医療費の無料化を実現したり、待機児ゼロの保育所体制、学校給食を国産食材で米飯化（週4回）を行うなど、まちをあげて「子育て環境千葉県一」を目指して取り組んでいます。また、仲間同士で支え合いながら自主的に子育てを行っている団体があります。自主保育サークル「やかましむら」は移住してきた家族同士が、お互いの子供たちの預け合いや仲間づくりからスタートし、今では100名規模の団体になりました。古民家を借り受け、保育活動の拠点を整備し、孤立させない子育てと若い子育て世代への支援、ネットワークづくりに充実した活動を展開中しています。

単に自然の中でのびのびと遊べるだけでなく、地域の人たちの見守りの目が生きているコミュニティの力こそ、いすみの子育ての魅力なのです。

【お節介ですが、移住のお手伝いをします】

さて、実際にいすみを候補地にとっても、住宅や、買い物、病院、学校など生活にかかわる様々な環境がどのようなものか、分からないことがたくさんあると思います。スムーズに田舎暮らしを始めるには誰か地域に通じた人の話が欲しくなります。

そうした要望をかなえるために、NPO団体、商工会や移住した人たちが移住のお手伝いの体制を作っています。もちろん、行政や不動産業者さんたちが後押ししています。「いすみ暮らしサロン」がそれです。

移住にはそれなりの心の準備が必要です。どうぞお気軽にご利用ください。

地域が培った大切な伝統や慣習、
楽しい行事に参加することは、

ルールなど「文化」があります。
地域に溶け込むよい機会です。



大原はだか祭り 9月23日(祝)・24日

江戸時代から続く勇壮な祭り。神輿が海中でもみ合う「汐ふみ」(23日のみ/大原海水浴場)と夕暮れの会場が無数の提灯で埋まる「大別れ式」(大原小学校)が見どころ。



春まつり 4月1日~3日

パレードやコンサート(4/1のみ)、フリーマーケットが行われます。「植木市」としても知られており、毎年の多くの人々が賑わいます。(大原中央商店街通り)



盆盆フェスタ 8月

盆踊り・花火大会を組み合わせた夏の大イベント納涼大会です。花火約800発が夜空を彩ります。(岬運動場)

万木城まつり 5月3日

つつじの満開期に鯉のぼり300本を泳がせて、ちびっ子大相撲や歌謡ショー・キャラクターショー、模擬店の出店等のイベントを開催しています。家族でピクニックが楽しめるまつりです。(万木城跡公園)

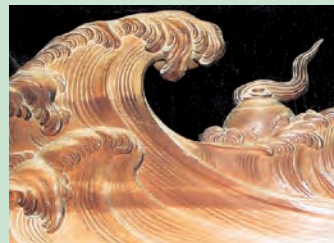
歴史的遺産

波の伊八

初代「伊八」武志伊八郎信由は、外房の荒波を象徴するかのような「波」の浮き彫りを作風とし、「波の伊八」の異名で知られる。この作風は、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」に大きな影響を与えたと言われています。



飯縄寺(いづなでら)本堂欄間彫刻
牛若丸と天狗の図



行元寺(ぎょうがんじ)旧書院欄間彫刻
「波と宝珠」



いすみ市には文化・スポーツ・趣味などの文科系サークルや、環境・福祉・子育て・まちづくりなどの市民活動団体が多数あります。それぞれの団体は、地域ごとに活動する団体、又、他の市町村までまたがる活動を展開している団体もあります。

各団体は季節ごとの各種イベントに参加し、日ごろの成果を発表する楽しい機会に恵まれています。いすみ市はこうした、市民の様々な公益的な取り組みを支援する制度を『まちづくり市民提案事業助成制度』として他市に先駆けて設け、地域の活性化に役立てています。

新たに、いすみに暮らす方々にとって、地域をよく知り、快適な人間関係を築くためにもサークルや市民活動団体に参画したり、イベントへ参加することが大変役立つことになるでしょう。

2009年に行われた「市民活動フェスタ in いすみ」と「ART + MART」イベントでは、市内外3000人を超える来場者と70以上の団体の参加で大盛況でした。

春、夏には市が主催する「スプリングフェスタ」、「サマーフェスタ」も行われます。それらのイベントの主役は市内の市民団体や、農漁業、商工団体などです。





小畑さんご夫妻
(2003年12月移住)

農的生活にあこがれ移住。 米作りと米Tシャツでネットワークづくり!

数々の転機

野生のイルカやクジラなどに興味があり、1994年国際イルカ・クジラ会議の現地スタッフとして小笠原諸島に滞在中、旅行していた妻と出逢いました。旅が好きなことや野生動物に興味があるなど、意気投合した二人は長い交際期間を経て結婚。95年からアパレル関連の会社役員として働いていた毎日は、多忙を極めていました。大学生の頃から自給生活を考えていた妻は、環境に負荷を掛けない暮らしをしたいとよく言っており、妻の考えに共感したことや、会社の経営も任せられる時期に来たこともあり、03年3月に退職しました。退職後は、日本各地の有機農業の取組みや伝統工芸を見たいと思い、二人で旅に出かけました。どこに行ってもコメの話になると皆さん熱く語ってくれたので、自分たちも米作りをしたいという気持ちが強くなりました。いろいろまわったなかでも、いすみの里山や田園の景観が気に入って家探しが始まり、自分たちの理想に近い賃貸物件を不動産業者から紹介され、すぐに移住しました。

新たな暮らしと環境

夫婦で米作りをしています。水路の修復、代掻き、田植えなど全ての作業を人力で行う過酷さは、これまで当たり前のように食べてきたコメに対する気持ちを大きく変えるものでした。その気持ちを表現したくてコメのTシャツを制作しました。野菜なども作り、70%くらい

自給しています。仕事の部分でも農に携わってみたいと思ったので、農産物直売所で働いています。農家の方々と仕事ができるので充実しています。

いすみでの暮らしは規則正しく、空気のおいしい環境で行う農作業のおかげか、私も妻も生きいきと健康的でストレスがなくなったようです。都会暮らしで欲求やストレスを解消するために費やしていた時間やお金は何だったのかと思うくらい、農的な生活は精神的なゆとりを与えてくれます。ただし、地域の通信環境はとても良い状況とはいえ、一日でも早く改善してほしいところです。

縁でつながるコミュニティづくり

まだ少人数ですが、市内の生産者同士で連絡会を作り、農的な暮らしを望む移住希望者への情報発信などをしていこうと新たな活動を始めました。

「いすみが好きだ!」という縁をきっかけに、農村や里山の景観、雰囲気を守りながら、より良い暮らしのために支え合える仲間を作りたいと考えています。伝統ある祭りや行事に加え、地元の方々と移住者の融合による「いすみらしさ」を創り出せれば、新たないすみの魅力が創造できるのではないかと考えています。

最後に田舎で暮らすには、何をしたいかを話す事、目的を意思表示する事がとても大切だと思います。



ITのプロとして生業を、そして家族そろって 地域の仲間で支えあう生活!

千代田さんご夫妻
(2004年12月移住)

東京都杉並区からいすみ市へ転入された千代田ご夫妻。移住された経緯や暮らしぶり、仕事などについて、お話を伺いました。

農のある暮らしに惹かれて

友人が以前、神奈川県に家建てたので遊びに行ったら野菜を育てていたんです。その、自然に囲まれた暮らしが私たち夫婦にとって、とても魅力的に映りました。

都会の生活しか知らない妻は、農的な生活という未知の暮らしに興味津々でしたし、都会を離れたという思いもあったのかもしれませんが。ネット検索や、住宅展示場での試算、土地代の調査などをしていくうちに、私たちにも家を建てるのが不可能ではないと思いはじめました。

仲間との充実した日々

釣りをするためによく出かけていた房総から候補地を探し始めたところ、いすみに気になる不動産業者を見つけ、ある土地を紹介してもらいました。普段は優柔不断の妻が、めずらしく土地を見た瞬間「ここだ」と断言したんです。それが現在の住まいですが、あの時の妻の直感を信じて良かったと思っています。

移住後は、地域の地区長を務めて行事の打合せなどで忙しく過ごしたり、ワイワイガヤガヤ会という男同士の飲み会を毎月開いたり、バンド活動したりと、バラエティに富んだ仲間が増えていきます。

二人が得たもの

WEB制作の会社でデザイナーとして働いていた私は、移住後も外苑前駅まで通勤していました。2004年、カンヌ国際広告フェスティバルのWEB部門で、制作担当として関わっていたチームの作品が銀賞に輝いたことは、多忙だった頃の良い思い出です。

当時は不規則な生活からくるストレスのせいか、同僚などには怖いイメージを持たれていたようですが、独立した今では仕事で行き詰まっても、ちょっと近所を散歩してくるとリフレッシュでき、イメージも変わったと思います。妻は味噌でも何でも自分で作るようになり、食に対する意識が変わったように思います。

また、人付き合いが苦手だったのに、地域ぐるみで孤立しない子育て環境を広げていきたいと、やかましむらという自主保育サークルの中で同じ境遇のママたちと交流することを楽しんでいきます。

ご近所とお茶を一緒に飲むような楽しいお付き合いをしたり、地域の行事などで、一人ひとりが埋もれることのない活き活きたコミュニティの心地よさを感じています。

今ではどんな人が引っ越してくるのだろうと、すっかり地元の立場になっています。悪気はないけれど、気になるという感じでしょうか。移住先では、コミュニケーションを取ることを嫌がらず、積極的に交流して欲しいと思います。



「農でつながるパン屋タルマーリー」を開業。
持続可能な地域社会が理想！

渡邊さんご夫妻
(2007年6月移住)

私たちは、房総で農のつながりのあるパン屋開業を実現するため、2007年6月、東京都世田谷区からいすみ市へ移住してきました。

なじみ深い房総へ

私は大学時代に3年間、千葉県南房総市（旧：三芳村）の生産者グループのところへ援農のため毎月通っている頃から、田舎で農業がしたいと思うようになりました。妻は勝浦市に祖父の別荘があり、子どもの頃からなれ親しんだ外房地域は好きでした。アメリカ開拓時代を題材にした「大草原の小さな家」が愛読書で、何でも自分たちで作る生活に憧れていました。いすみ市の開放的な田園風景が気に入っていたこと、候補地を探していた当時、いすみ市へ移住された方が情報発信していたことで安心感を得ました。

苦勞を乗り越えることを楽しみたい

いつかは房総に住みたいけれど、夫婦で田舎に暮らす手段がなく、手ぶらでは通用しないと考えていましたので、地域の農とのつながりをより深めるパン屋を目標に、それぞれ私はパン職人の修行、妻はジャム加工業者で販売部門の勉強をしました。

東京生活では、男性の活躍する力仕事が少ない、女性は家事分担などで不満に思うことも多いですが、こちらの古民家に住んでからは、大工仕事や庭仕事などは私の仕事、家の掃除や食事の支度などは妻の仕事、というように男女の

役割分担が自然にでき、お互いを尊重できるのがいいですね。

抱いてきた、夫婦の夢

東京で生活しながらパン屋を開業するための物件を探していましたが、不動産業者から紹介していただく物件をすぐに見に行くこともできず、私たちが本気で移住し開業するのか、地元の方々にも信用が得られず難しいと感じました。

そこで、思い切って東京での仕事を辞め、市内のアパートを借り、あてもないまま地域に飛び込みました。思うような古民家の賃貸物件が見つかるまで12年かかることも覚悟のうえで、縁に恵まれ3ヶ月後には現在の古民家に住むことができました。敷地内にあった納屋をコツコツと手づくりのパン工房に改修して、2008年2月、結婚当初から抱いてきた夫婦の夢「パン屋 タルマーリー」を開業することができました。

現在「フロム・アイ・プロジェクト」という市民団体を立ち上げ、地域が農でつながる環境づくりに取組んでいます。地元の農産物を、地元のパン屋やレストランなどの食品加工業者が使うというように、地元で地元のものが循環することで、豊かな地域を築いていくことが目標です。そのためには、しっかりとした“作るチカラ”と“売るチカラ”が必要です。地方で起業しようと頑張っている移住希望の方に、私たちの経験が少しでも役立てばと思っています。



いすみで結婚、仲間とともに田舎でしかできない農的生活を実践中

渡貫さんご夫妻
(2009年5月移住)

渡貫洋介さんと子嶺麻（シネマ）さんは、2009年5月24日に二人の生活の場である桑田の「ブラウズフィールド」で結婚の披露を行いました。

現在は、この場所で通年10名ほどいるスタッフのとりまとめ役として活躍しています。世界中から集まるウーファーたちと一緒に畑や田んぼで働き、各イベントに参加する人々への対応などで忙しいながらも充実した毎日を送っています。

いすみ市に住むようになったのは

子嶺麻さんは中学卒業後、いすみを離れて進学。その後は東京で働いていましたが、母親の中島デコさんから声をかけられ、またこの地に戻ってきました。「東京での暮らし、特に食に対する疑問が強くなったのが2年前。それまで何度もいすみの母のところへ帰っていましたから、故郷に戻るような安心感がありました。」

一方、夫の洋介さんは、実家がある東京を離れ、小笠原へ移住。海のガイドとして生活していました。そこへ子嶺麻さんが来島し、出会い、長距離恋愛の末に結婚。

なぜいすみを選んだのか、そのわけ

「いすみ市に決めたのは、東京との距離感がちょうど良いんです。行き帰りの2時間は大事な自分の時間です。それから、東京で購入する食材の多くは遠くから運ばれてきます。その

いくつかは千葉からもやってくる。だったら、こちらから行って住んでしまえば、より新鮮な自然の恩恵が受けられると思ったんです。」という二人の共通意見でいすみでの生活を選択しました。

住んでみての感想は

洋介さんにとっては新しい環境なので、全てが初めての体験でした。「今までと変わったことは人との付き合い方。ご近所が助け合う、昔ながらのコミュニケーションがここにはありません。年配の方に苗の育て方を教えていただいたり、こちらも力仕事をお手伝いをしたり、濃密な信頼関係を築き、地域貢献できることは嬉しいです。」

次世代に伝えたいもの

ブラウズフィールドで共同生活をしてきたウーファーたちの中で、これまで5組以上が結婚をしているそうです。若い世代がいすみをベースに新たな家族を作り出すそのムーブメントに、このお二人も一役買っている実感しました。

「いすみへの移住を成功させるポイントの一つは、田舎を楽しむこと。欲しいものが見当たらなければ、頭を使い、工夫すること。お金をかけなくても、急がずゆっくりと構えていれば、きっと良いアイデアが解決してくれますよ。ご近所付き合いも、時間をかけて溶け込むのが大事。無理は禁物です。」

“のびのび自然の中で育ち、豊かな そんな子になって欲しい!!。”

感受性と生活力を持った子ども達…

～市長と市民の子育て座談会～



知り合う機会は、いろいろなイベント(行事)に参加するのが大事。

いすみ市に移住されて子育てで不安に思ったことや困ったことは？

齋藤：いすみで子育てを始めた頃は、一人で悩むこともありましたが、市の幼児教室に参加したことがきっかけで、相談し合える仲間ができて支えになりました。また、地域の子ども会活動に参加することで、徐々に地域の親御さんたちの中に溶け込むことができました。



齋藤さん

芝崎：結婚するまで「いすみ市」が何処にあるのかさえ知りませんでした。地域の情報も全く知らず、とても不安でした。私の住んでいる地域は、子どもが少なく、子ども会やPTAなどの役職が重複することがあり大変な面もありましたが、これらの活動を通じてお母さん方と親密な関係を作ることができました。



芝崎さん

小野塚：東京に住んでいる頃から、サーフィン

をするために九十九里へよく来ていました。結婚して家を作るのを機会にいすみ市へ移住しました。子どもができて、初めて地域のことに目を向けるようになり、自主保育サークル「やかましむら」に出会いました。そこで子どもを互いに預けあうことや、考え方が近い方々とお話することで子育てが楽になりました。



小野塚さん

北澤：皆さん、不安を持ちながら生活していたようですが、私も当初は苦労しました。私たちは、子育てのセーフティネットのようなものを目指して「やかましむら」を設立しました。環境と共生した子育てをしたいという気持ちで、お互いに助け合いながら活動しています。



北澤さん

子どもに何を伝えていくかは、大人が地域に責任を持つことだと思う。

いすみ市に暮らし、子育てされてきた方からの感想は？

宮内：昔からの地域のコミュニティが今でも生きていて、近所の方の目が行き届いて、子ども達には安全で良いですね。最近では子どもが減ってしまったので、遊び仲間が近くにいないのが残念ですけど、学校も少人数で良いと思います。保育に関しては、午後7時まで延長保育を実施



宮内さん

している保育所が限られているなど、改善してほしい部分はありますが、なんとと言っても待機児童がいらないのはすばらしいですね。

目羅：自分が育った時代と子育てをしてきた時代との環境の差に愕然とし、子育てをしてきた中で見えてきたものがあります。次世代の子ども達に何を残していけるのかと考えるようになり、“土”を子ども達に残して行きたいという思いから、農業に興味を持つようになりました。



目羅さん

米食給食を週4日、食材も国産でやっています。いすみ市の子育て環境の充実策は？

太田市長：いすみ市は、子育て千葉県一を目指しています。親の経済的負担の軽減と子ども達の目線に立った支援の二本立てで進めます。医療費の助成や保育環境の充実、さらに農業の再生も考えていますが、農業再生はいすみ市にとってのキーワードであり、教育面においても深い繋がりが 있습니다。いすみ市の学校給食は、週4日の地元産米の米飯給食で、全ての食材で国産品を使用しています。児童・生徒の評判も上々です。



太田市長

北澤：子育てにはより細かいケアが必要と思っているのですが、保育ママ制度のようなシステムができるといいですね。これを市内に広げていき、登録制のベビーシッターのようなネットワーク整備を構築することで、子育て世代を助

けることができると思います。

地域の暖かな目を信頼して溶け込んでください！

これから移住をお考えの方々へのアドバイスは？
宮内：特に「これ」って言うものはないですけど、標準レベルで揃っているところが「いすみ市」。買い物など普段の生活では不自由しないと思います。多様なロケーションから住む地域(里山・海)の選択肢がたくさんあるのもいすみ市の良さですね。

目羅：子どもが大きくなってからわかったのですが、仕事などで子どもと接する時間が制約されていたことが残念に思います。小・中学生の頃が一番親との時間が必要なのにそれができない。時間にゆとりができた時には、もう親離れしていて一緒に時間を過ごしてくれない。そのことを若い人たちに伝えたいですね。

この地域は、濃密な人付き合いが残っています。地域のコミュニケーションは、移住してきた方々にとっては、わずらわしいと感じることもあると思いますが、地域が子どもを見守ることにつながっていると思います。

北澤：田舎暮らしの条件として、地域の行事に参加したり、子ども会などの役職を引き受けたり、その地域のコミュニティに溶け込むことが必要だと思います。それが結果的に友達づくりのチャンスであり、地域に受け入れられるきっかけになると感じました。



司会の伊藤さん

子育て支援策

子ども医療費助成



小学校3年生までの乳幼児の入院・通院に要した医療費(保険適用範囲内)の全額について助成します。

●詳しい問合せ先…福祉課

いすみ子育てジャンボリー



地域のボランティアの協力を得て、自然体験活動や子育て仲間とのふれあい交流を深めています。

●詳しい問合せ先…教育委員会生涯学習課

子育て支援センター



就学前の児童を持つ家庭を対象に、各種子育て情報の提供や子育てサークルの支援などを実施しています。

●詳しい問合せ先…福祉課

放課後児童クラブ



昼間、保護者が家庭にいない児童のため、生活や遊びの場を提供しています。

●詳しい問合せ先…福祉課

子育てふれあい学級



子どもとのふれあいや、保護者の交流を通して、しつけや子育てのあり方などを学んでいます。

●詳しい問合せ先…教育委員会生涯学習課

- 児童医療費助成 詳しい問合せ先…福祉課
小中学生・高校生(一部)の入院・通院に要した医療費(保険適用範囲内)の全額について助成します。
- オープンスタディ事業(放課後学習事業) 詳しい問合せ先…教育委員会学校教育課
苦手な算数を克服するため、算数の基礎的な補習学習を実施しています。
- 病後児保育(乳幼児一時預かり事業) 詳しい問合せ先…福祉課
病気の回復期にある児童を一時的に委託契約先の病児保育所で預かり、保護者の就業と子育てを支援しています。
- 延長・乳児一時保育 詳しい問合せ先…福祉課
女性の就労支援や病気など、家庭の事情に応じて保育所において児童を一時的に預かります。



八重樫さんご夫妻

魅せられた昭和の香りの古民家、 いすみに軸足をおいた夫婦2地域居住！

ご主人、八重樫健一さんはDJ、音楽プロデューサー、雑誌での評論記事や写真集などの企画、執筆、ラジオ番組にも出演と幅広い活躍をされています。夫人、小野明美さんはTV、映画、撮影などのタレントのヘアメイクを担当するスタイリスト業で、海外や東京との間を行き来しています。

二地域居住の様子

2005年8月いすみ市日在に住宅を購入しました。東京での拠点は目黒のマンションです。利用の頻度は私が月2~3回程度、妻はほとんど東京で仕事ですが、東京での宿泊は時間の都合で利用する程度ですね。仕事の設備もこちらに持ってきているので、メインはすでにいすみでの生活となっています。妻の仕事では東京に住居があることで、仕事の打ち合わせができ利用価値はあるようですが、私は地方へ出張があるときに泊まる、いわばホテル代わりとなっているぐらいですね。

なぜ房総に住むことになったのか、 そのわけ

妻の動機の一つには東京での生活の問題からです。空気の悪さ、喧嘩や、緊張感などストレスの多い生活を変えたかったことも。また、魚好きの彼女にはたべるもののおいしいところへ移りたかったことも理由です。私にとっては東京のマンションで仕事をしないというとな

く罪悪感があったりで落ち着かない。自分の仕事はどこでもできるものだから、東京にいない必要がなかったんですね。

どのようにいすみにたどりついたか

千葉には何の縁もなかったのに、湘南方面から、2年半、ネットで調べたり、いろいろ情報を集めながら、現地へ何度も足を運んで探しました。私は車を運転しませんから、現在の仕事、また老後を考えてと駅に近く、東京へも通えるという条件に加え、海にも近く建物が80年余りたったとても風情のある物件だったのですぐ買うつもりになりました。

住んでみての感想は

生活のスタイルが変わりました。歩いたり、自転車が出かけたり、体を動かすことが増えました。何もしないで過ごすことが気持ち良い。その分仕事は減りました。期待していたよりもコメや果物など食べ物、夷隅川、海岸などの自然、どれもが素晴らしい。妻も仕事で遅くなってもいすみに帰ることが多い。また、遊びに来た友人たちにも頼まれ物件探しをしたりもしています。

これから住む方へ

物件は、昼間良い季節だけでなく、夜も雨の時間もたくさん見た方が良い。老後を考えて駅からの距離も大事です。



小倉一磨さん

地域に溶け込みながらの都心通勤20年、 いすみのスペース感到満足！

東京への通勤を20年以上継続中!!

「東京までの通勤は価値観の違いです。自分には勤められませんが、いすみのスペースが自分には良いんです。子どもたちも自宅から千葉まで通ってます。それで20年来てますから、まだ続くと思います。」と語る小倉一磨さん。

いすみに来る前は？

東京の阿佐ヶ谷に住んでいました。市内の東中滝に両親が住んでいましたから何度か岬町には来ていて、子どもを育てるのには良いところという印象を持っていました。

その後私たち家族と母親とも同居することになりました。その当時は、通勤のことは何とかなると考えてました。

実際の通勤事情はどんなものでしょうか？その苦労話！

通勤の最初の日はショックでした。冬に始めたこともあり、家を出るときはまだ真っ暗だったんです。8時過ぎに都心のオフィスに入るには、その当時はまだ京葉線が無かったため5時台の電車に乗っていかねばならず、正直、それは大変です。仕事柄、遅くまで仕事するのが当たり前でしたから、終電が無くなった時は何度かオフィスに泊まったこともあります。

その後、京葉線ができたことで以前に比べるとずっと便利になりました。20年も慣れてしまうと、通勤時間2時間半は特に何も無いで

も苦痛ではなくなりますが、私の場合は、通勤手当や残業規制など勤務先の条件が良いので出来たと思います。これから通勤を前提に移住を考えている人はそれなりの条件と、覚悟が必要でしょうね。

移住してみたの感想、地域での関わり など気がついたことは？

比較的若い時に移住したので、地域の町内会、神社の祭りなどに参加し、役もやってきて、現在も町内会長もやっておりますが、地域のしがらみの強さが良いも悪いもありますね。

アドバイスとして言えるのは隣の人の顔も知らないような、都会の生活を持ち込んだらやっとならなくていいということです。

いすみ暮らしへの希望

今、ランニングが日課です。通勤前に毎日5Km、日に30Kmの時もあります。いすみには適度なアップダウンや、海を見ながら走るなど良いコースがあります。

通勤の苦労はありますが、このスペース感がある自然の良さを楽しんでいけたらと思います。一度、娘たちに東京に戻ってもよいか聞いたことがあるが二人とも『いや』ということですから、このスペース感がある自然の良さを楽しんでいけたらと思います。



土井さんご夫妻
(2003年6月移住)

早めの退職から孫たちのための「田舎」づくり、そして移住案内人へ！

千葉県内から2003年6月に越してきました。体調に変調をきたすほど神経を張り詰めて仕事をする毎日だったので、55歳になったら退職し、のんびり過ごそうと決めていたことと、孫のために「田舎」が欲しくて、移住を計画していました。はじめは信州を考えていましたが、年齢を重ねて体力が衰えた時、冬の寒さや雪掻きの大変さを考えると不安だったので信州暮らしをあきらめ、気候の温暖な房総に候補を絞り、最終的には、山があり、海があり、川もあるこのいすみ市に決めました。

こちらでは、私は、海釣りはもちろん、川ではエビや藻屑蟹、鯉を捕まえたり、タラの芽やワラビ、ゼンマイなどの山菜採りをしたり、野菜作りや木工細工を、妻はジュエルエッグづくりやガーデニング、押し花などを楽しんでいます。この風景や空気など、自然環境は貴重な財産ですから、「まちづくり」や「まち残し」のための材料はたくさんあると思いますね。

私の住んでいる地域に移り住んだ方々には、地元住民とのつながりや田舎ならではのローカルルールなどの情報を提供したり、知り合いも少ない寂しさなどの不安を取り除いてもらえるように挨拶をかねて声をかけさせてもらっています。

地域の人たちは、親切で純な方が多いですね。シャイなところもあるかもしれませんが、とけ込む気持ちがあれば、スムーズに近所付き合いができると思います。『郷に入っては郷に従え』という言葉がありますが、そうした気持ちを持っ

て暮らしていくことも大切だと思いますよ。

気になるところと言えば、私の家は夷隅川のほとりなので、台風の時などは川が増水して怖いときもありますし、水が引いた後は、畑に竹などの大量の流木やゴミ等が残され、掃除がたいへんです。移住してくると避難先や避難経路、ガケ崩れや水に浸かりやすい場所等が分からないので、ハザードマップや地域をあげての避難訓練などがあるといいですね。

のんびり暮らそうと考えていましたが、市民活動団体や行政が連携して取り組んでいる移住促進の活動に私も参画して、移住希望者の相談対応や体験プログラムでの移住案内人として、地域の生活環境など、移住する前の判断材料となる情報を提供するお手伝いをして、忙しく充実した生活を送っています。移住の促進により、地域にいない人材や活力の確保など、目に見えにくいですが大きな効果を期待して、出来る範囲で元気ないすみ市づくりに貢献していきたいと思っています。



濃密な地元つきあいに助けられ、ジャージー牛のチーズづくりを軌道に！

五十川さんご夫妻
(2007年7月移住)

敬記さん

定年前、これからは農業をしたいと考えるようになり、3人の娘が独立したのを機に、東京都八王子市から移住してきました。仕事でよく来ていた千葉県で候補地を探していたところ、初めていすみ市を知りました。豊かな自然と里山に惹き込まれ、物件を探しに何度も足を運ぶようになりました。

現在の住まいは、不動産業者に紹介された空き家物件でした。情報をもって現地へ行くと、周辺の景観や雰囲気も気に入ったので、農地や山林などをまとめて購入しました。実際に住んでみると、気軽に声をかけてくれる近所の方、地元の盆踊りで私を紹介してくれた方、地域交流を推進している団体に誘ってくれた方、地域のみなさんが私たちを歓迎してくれているようであれしく思っています。

いすみ暮らしも1年が過ぎると生活環境にも慣れ、やりたいことに気持ちを向けられるようになり、米作りや野菜作りにチャレンジし、牛と鶏を飼育しながら自給自足の生活を始めています。地元の付き合いやルールなど地域での生活のことは、近所の方が親切にアドバイスしてくれるので助かっています。農業の話になると、それぞれのやり方があり、違った意見などに混乱することもあります。地域のコミュニティがとても活発だと感じています。今では、「インターネットで調べて欲しい」と近所のお年寄りが訪ねてくれるようになりました。80歳、90

歳で元気な姿を見ると励みになりますし、田舎のお付き合いに安心感を覚えています。

明子さん

私が農業をしようと思ったのは、農作物の自給率が低いといわれる日本で「今後、誰が食べ物を用意できるのか」と不安を感じ、「これからの暮らしは、自給自足と助け合い」と考えたからです。

いろいろ探した候補地の中から、いすみ市へ移住する決め手となったのは、訪ねる度に地元の方々の人柄の良さに触れられたことです。生活していくうえで重要だと考えていました。

今、私の楽しみは、チーズ作りを習っていることです。自給自足の暮らしは簡単なことではありませんが、二人で楽しんでいます。近い将来、農作業体験を通じて育てる楽しさや食べる喜びを味わってもらえる農家民宿にチャレンジしたいと思っています。

一人でも多くの若者が農業に関心を持ち、農地や山林などを守り継いでくれるよう願っています。



移住についての不安あれこれ 「よくある質問」と「早く地域になじ

むためのコツ」をご紹介します

Q 自然の中でのびのび子育てできる場所を探して移住を考えています。いすみ市の子育て支援について教えてください。

A いすみ市では、医療費助成制度や子育て支援センター、放課後児童クラブの取り組みなど子育てに適した環境が整っています。

また、自主保育サークルなどの活動も活発です。いすみ市の海、川、山の自然に恵まれた環境の中で安心して子育てすることができます。



Q 家庭菜園のできる不動産物件の紹介をして欲しいのですが。

A いすみ暮らしサロンでは、不動産についての情報を提供していますが、仲介事務は行っておりません。不動産物件についての詳しい情報をお知りになりたい場合は、不動産業者にお問い合わせください。

市内には30件以上の不動産業者があり、P21に業者一覧が掲載されています。



なお、いすみ市では「いすみ市ふれあい農園」として市民農園を開設しています。

Q 買い物などに不便はないのでしょうか？

A 市内には4つの商店街のほか、12の農産物・海産物直売所があり、新鮮な野菜や果物、お米、魚介類などが購入できます。国道沿いなどには大手スーパー、ドラッグストア、家電用品店、ホームセンター、レンタルビデオ・書店など、生活に必要なものは揃っています。



Q 田舎の暮らしになじめるか心配です。

A いすみ暮らしサロンでは、長く市内にお住まいの方や、移住されて来られた方が相談員として移住にかかわるさまざまな相談を受けています。また実際に田舎暮らしの体験をしてみたい移住希望者向けに、体験・交流プログラムを毎年実施しています。



Q 移住後、仕事があるか心配です。

A 都市部のような職種や待遇は期待できず、求人数も限られているのが実情です。「どんな仕事でもやるから大丈夫」という人でも、簡単に仕事は見つからないと思います。

田舎に住んで新たに仕事に就こうと思うのなら、まず、移住前に仕事を確保することが望ましいです。具体的な仕事については、市内のハローワークにご相談ください。



起業などで田舎ならではの仕事をつくり出し、理想とするライフスタイルを送られている方もいます。



いすみ流 移住・定住の心得8カ条

「田舎暮らしは人付き合いから」

地域に移り住もうとしている人にとっては、その地域での近所付き合いに不安をもつことでしょう。一方で地域にとっても、どんな人が移り住んできたのかは心配の種でもあるのです。地域の生活習慣や風習を、初めら分かるはずありません。ちょっとした意識のズレが、お互いに良好な人間関係を損なうことになるかもしれません。まずは、先輩方に積極的に歩み寄ることから始めることこそが、田舎暮らしにうまくなじむコツなのです。

それを大前提に、以下、地域に溶け込む田舎暮らしの心構えを8カ条にまとめました。

心得1 田舎では早寝早起きを心がける

田舎暮らしは自然のリズムとともに、日の出で一日が始まり、夕暮れに一日が終わります。例えば、朝早くに草刈機や農作業機械の音がするかもしれません。生活のリズムはあくまでも個人の自由というものの、夜更けた時間に騒音を出すことなどはご法度です。ご近所への迷惑にならないようにするのは基本中の基本です。

心得2 必ずしも悠々自適の生活とはいかない

夢に描いた田舎暮らし。晴耕雨読・悠々自適の生活と思いきや、暮らしに係わるご近所の用事は決して少なくありません。「隣は何をする人ぞ」という無干渉の都市型ライフスタイルは通用しないと考えるべきです。

心得3 普段のあいさつは絶やさずに

田舎の人は話下手が多いものです。初めは挨拶をしても返答がなかったり、じっと見られるだけのこともあります。それは、決して無視しているわけではありません。まだ貴方を伺っているのです。地域の人の多くは心優しく、好意的ですが、素性が明らかになるまでは警戒心も強いのが特徴。どこのだれかが分かってくると、話が弾みいろいろな有益な情報が得られます。顔を合わせたら、貴方から軽く会釈であいさつしてみましょう。

心得4 聞くべき事は聞く、言うべき事は言う

まずは地域での暮らしのルールをお聞きする。これは、これから一緒に地域で暮らしていく上で

の基本中の基本です。しかし理解できないことも少なくないでしょう。価値観の違いといってしまうえば、それまでですが、そんな時は、優しい口調で価値の違いについて語りかけることも大切です。言うべきことは言ってみましょう。ただし、聞くべきことを聞いた上で。

心得5 郷に入れば郷に従え

とはいうものの、やはり基本は「郷に入れば郷に従え」。農耕生活の中で長きにわたって継承されてきたルールには一目おくべきです。理に適ったものが多いこともあるでしょう。

心得6 新しいコミュニティを楽しむ

素性がわかってくると、家族ぐるみの付き合いに発展することや、お裾分けをいただけることも少なくありません。いままでには無かった新しい地縁的なコミュニティを楽しむことも、新たな愉しみのひとつ。田舎暮らしの先輩を訪ねたり、地域のサークルに入り同じ趣味の世界をつくる等、積極的な仲間づくりを広げてみましょう。

心得7 近所づきあいは面倒がらずに

ご近所どうしが良好な関係にあることは、新参の転入者にとっても、地域の人々にとっても嬉しいもの。近所付き合いを面倒がっていると、良好な関係はいつまでたっても築けません。相互の理解が進み打ち解けてくると、得てしてプライバシーに踏み込んだことも少なくないはず。しかし決して悪意があるわけではないので、少しはおおらかな気持ちをもつことも大切です。

心得8 地区の役職をすると、地域に認められる

地域には「区会」「自治会」「町内会」などといった住民主体の組織があります。この組織は、住まい方のルールを決めることに加えて、祭り、清掃、普請等の自治運営の進め方を決めて、実行しています。まずは住民組織に入ることです。そのうえで、少しでも早く受け入れてもらいたい認めてもらうには、地域の役職を進んで引き受けるのも一つの方法です。「組織に入っても何のメリットもない。煩わしいだけ」では、せっかく田舎に来て暮らしを楽しむことを自ら放棄したのも同然です。

いすみ市データと公共施設

●面積……157.50km² ●人口……41,962 ●世帯数……16,374戸 (22年12月末)

公共施設

いすみ市役所

- 〒298-8501 千葉県いすみ市大原7400-1
- 大原庁舎……0470-62-1111
- 夷隅庁舎……0470-86-2111
- 岬庁舎……0470-87-2111
- 夷隅文化会館……0470-86-5000
- 大原文化センター……0470-63-1222
- 岬公民館……0470-87-6111
- 岬ふれあい会館文化センター
…0470-87-8785
- 郷土資料館……0470-86-3708
- 水彩ギャラリー……0470-63-1139
- B&G海洋センター……0470-87-5866
- 夷隅保健センター……0470-86-3799
- 大原保健センター……0470-62-1162
- 岬ふれあい会館保健センター
…0470-87-8786

保育所・小学校・中学校

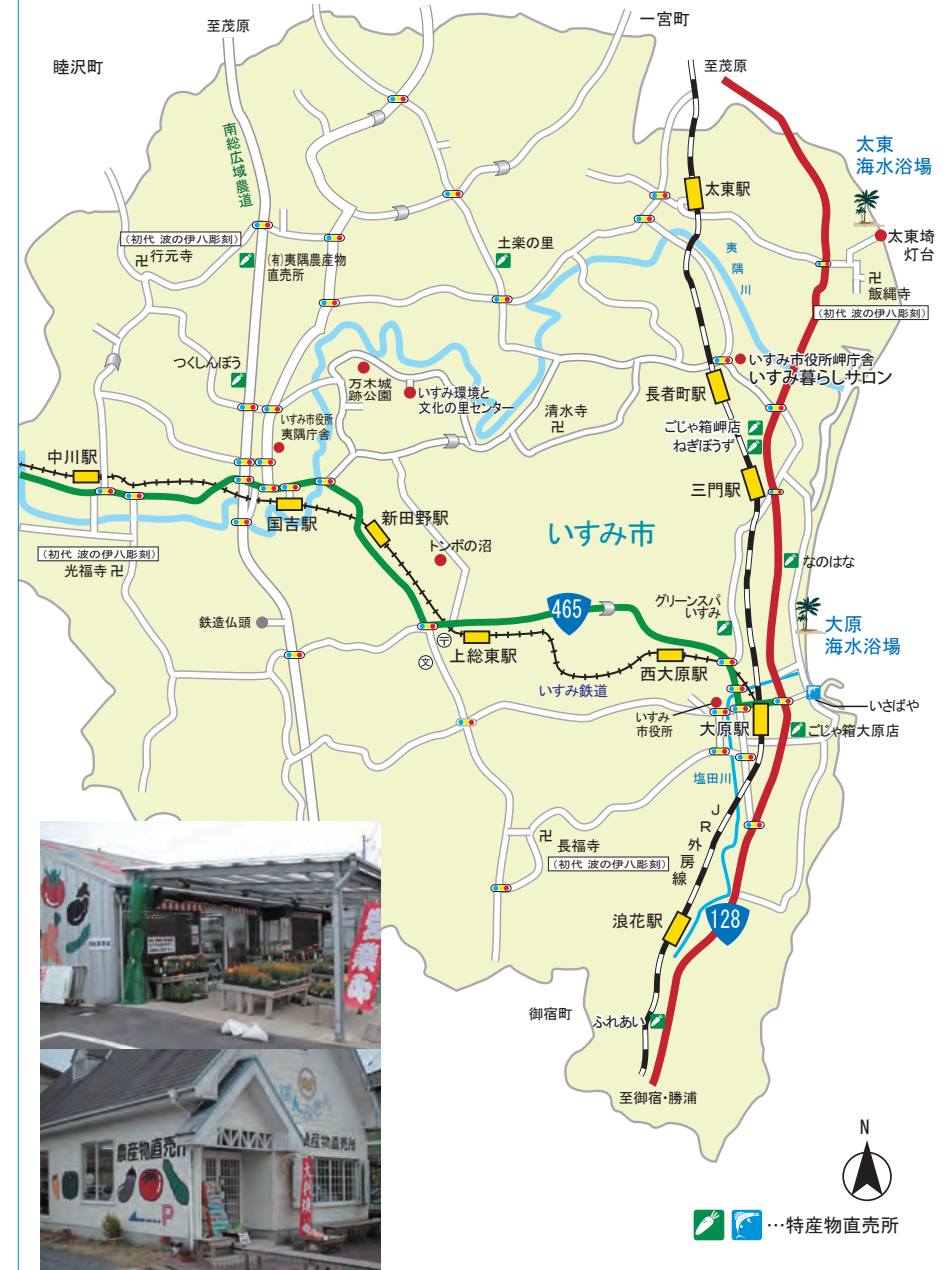
- 市立保育所……11カ所
- 私立保育園……1園
(幼稚園はありません)
- 小学校(うち組合立1校)……12校
- 中学校……3校

いすみ市の歴史、史跡、名所

- いすみ環境と文化のさとセンター(ネイチャーセンター)
- いすみ市郷土資料館
- 太東埼灯台
- 大原漁港
- 万木城跡公園
- 行元寺(ぎょうがんじ)
- 光福寺(こうふくじ)
- 飯縄寺(いづなでら)
- 長福寺(ちやうふくじ)
- 部田熊野神社(へたくまのじんじゃ)
- 椿公園

医療機関		
名称	診療科目	電話番号
いすみ医療センター	内・外・消・小・婦・整・皮 泌・耳・眼・放・歯・脳・リハ	0470-86-2311
岬病院	内・リハ	0470-87-7811
大原病院	内・小・放・外・脳	0470-62-2221
大原クリニック	内	0470-60-4800
大原台クリニック	内・外・脳・小	0470-62-9500
斎藤医院	内・整・肛・麻・外・リハ	0470-63-1821
斎藤クリニック	内・外・泌・皮	0470-62-0822
永津さいとう医院	内・眼	0470-87-2223
山本医院	内・小	0470-87-9531
土屋外科内科医院	内・外・皮・放・泌	0470-62-0007
吉田外科内科	内・外・整・皮・泌	0470-87-5835
草壁医院	内・皮・泌・婦	0470-62-0037
もりかわ医院	内・小・産	0470-87-3347
ひあり内科医院	内・小・神内・リハ	0470-60-1266
鈴木内科医院	内・小	0470-87-2901
外房こどもクリニック	小	0470-80-2622
北村整形外科	整・リハ・リウ	0470-63-0511
田中整形外科	整	0470-62-3447
大原眼科クリニック	眼	0470-60-1500
いすみこころのクリニック	心・内・精	0470-63-2611
熱田歯科クリニック	歯	0470-87-9339
片倉歯科夷隅診療所	歯・小歯・矯歯	0470-80-5555
小守歯科	歯・小歯・矯歯	0470-63-0005
最首歯科医院	歯・小歯・矯歯・歯口	0470-62-0238
最首デンタルクリニック	歯・小歯・歯口	0470-62-2543
草壁歯科クリニック	歯・小歯・矯歯・歯口	0470-63-2511
ジツカタ歯科医院	歯・小歯・矯歯・歯口	0470-63-0070
白井歯科医院	歯・小歯・矯歯・歯口	0470-62-0933
関歯科医院	歯	0470-87-6888
ちはら歯科医院	歯	0470-62-1555
吉田歯科医院	歯・小歯	0470-87-5213
吉野歯科医院	歯・小歯・歯口	0470-62-4182
鈴木歯科医院	歯・小歯	0470-86-5526
杏春堂歯科医院	歯・小歯	0470-86-3808
宝歯科岬診療所	歯・小歯	0470-87-6334
獣医		
アフィネ動物病院	獣医科	0470-62-8525
永野獣医科医院	獣医科	0470-87-2722
早川動物病院	獣医科	0470-66-2277
平岩動物病院	獣医科	0470-62-8117

いすみマップ



「いすみ」な暮らしのチェックポイント

田舎暮らしに興味がある方は、目的を明確に持ち、移住候補地の選定や地域の様子を楽しみながら調査し、移住に向けて準備していくことをお勧めします。

どんな暮らしをしたいですか？

農的な暮らしへの憧れ、自然のなかでのびのび子育て、田舎で起業、退職後はのんびり田舎暮らし…など、移住のスタイルは様々です。いすみ市は、里山・里海・田園風景・河川など豊かな自然が凝縮する地域ですから、多様なライフスタイルが実現できます。

移住したいところは絞れましたか？

全国には様々な移住の取組みをしている地域があります。自分が生活するイメージが持てるような地域をいくつか絞っていきましょう。

いすみ市では移住ガイドブックをはじめ、各種チラシ・パンフレットをご用意しております。房総での暮らしをお考えの際は、遠慮なくお問い合わせください。

移住したいところへ行ってみましたか？

新しい環境で生活するのは、とても勇気のいることですし、実際に住んでみたらイメージと違うでは取り返しが付かないことになりかねません。

いすみ市では、平日は市役所地域プロモーション室、週末は移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」で私たち職員や移住相談員が相談にお応えしておりますので気軽にお越しください。

また、いすみ市民との交流、移住者の暮らしぶりや農作業を体験できるプログラムも実施しています。ご自身で確認することで、移住後の暮らしのイメージが捉えやすくなると思います。

仕事は決まりましたか？

田舎(地域)では職種、求人数は限られていると思います。また、前もって仕事を探すにも職業安定所などの求人情報では数に限りがあります。都市部ほどの収入は得られないのも現状ですが、田舎(地域)ではそれほどお金を使わずに生活することも可能です。

しかしながら、田舎ならではの出費もありますから、資金計画は必要です。いすみ市では、地元商工会の職員や房総で起業された方を講師として、田舎で起業するためのノウハウを勉強していただく起業セミナーを開催しています。

業種が少ない分、今まで地域にない新しい業種にチャレンジできる場所でもあります。

住む家は決まりましたか？

移住するにあたって一番の関心事は住まいだと思います。田舎に住むなら古民家がいいと言われる方が多いのですが、築50年100年と言った茅葺平屋の家など実際はなかなか見つからないのが現状だと思います。空き家になっている家がたくさん見受けられると思いますが、別荘として利用していたり、盆暮れ正月には帰省するなど、所有しているが、手放したくないと言う方が多いのも現状です。

いすみ市では、不動産物件の斡旋は行っておりません。ガイドブックやUJIサイトに掲載してある地元の不動産業協会にご自身でお問い合わせいただいております。

移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」においても不動産物件の斡旋は行っておりませんが、物件選びの参考にしてもらうために、金額などを掲載した資料を用意させていただいています。

まずは、私たちにご相談を！ いすみ市役所 総務部 地域プロモーション室

私たちは、市民や移住者、市民活動団体などと連携・協働しながら、移住・定住を促進する事業に取り組んでいます。具体的には、UJIターン情報サイトや移住ガイドブックの作成、田舎暮らし体験プログラムの実施や移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」の開設など、田舎暮らしを希望する方々が移住候補地を選択する際の手助けとなる情報を提供するとともに、各種の相談にお答えしています。

田舎暮らしに関する不安・心配や求められる情報は多種多様で、全てを解決することは難しいかもしれません。しかしながら、私たちは一人ひとりがいすみ市で理想とするライフスタイルを実現できるよう、誠実にきめ細やかな対応をさせていただきたいと思っていますので、まずはお気軽にご相談ください。

また、今後も移住候補地として選択される地域となれるよう、魅力ある元気ないすみ市づくりに取り組んでいきたいと思っていますので、ご意見、ご要望、アイデアを是非ともお聞かせください。

いすみの住まい探し

市では民間アパートや空き家などの情報提供や斡旋を行っておりませんが、市内に多数の不動産業者がごいますので直接お問い合わせください。

社団法人 千葉県宅地建物取引業協会 南総支部 外房地区 (いすみ市内)

商号又は名称	所在地	TEL	FAX
(株)和泉土地	いすみ市岬町中原 137-1	0470-87-3321	0470-87-3323
(有)エルフ住宅設計	いすみ市岬町江場土 533-1	0470-87-3530	0470-87-3418
(有)大高不動産	いすみ市岬町椎木 348-3	0470-87-3417	0470-87-7353
(有)三景エステート	いすみ市岬町江場土 4470-1	0470-87-4163	0470-87-7554
(株)新千葉東和	いすみ市岬町長者 30-9	0470-87-4311	0470-87-4311
(有)外房土地情報センター	いすみ市岬町江場土 4441-1	0470-87-4408	0470-87-6787
(有)南海不動産	いすみ市岬町三門 1857-2	0470-87-4331	0470-87-5574
南房土地(有)	いすみ市岬町中原 169	0470-87-7531	0470-87-7532
花不動産(株)	いすみ市岬町押日 2688	0470-87-3746	0470-87-3746
(有)フジ不動産	いすみ市岬町江場土 4491-1	0470-87-2234	0470-87-3339
(有)双葉建設	いすみ市岬町江場土 1567-1	0470-87-8011	0470-87-8012
(有)岬地所	いすみ市岬町椎木 1436-1	0470-87-7141	0470-87-7451
(有)渡邊土地建物	いすみ市岬町江場土 544	0470-87-7799	0470-87-7798
(有)愛和商事	いすみ市日在 1186-1	0470-63-1260	0470-63-1972
石井林産(株)	いすみ市山田 5535	0470-66-1521	0470-66-0307
御宿土地(株)	いすみ市日在 1575-2	0470-62-3611	0470-63-1035
(株)協和ハウジング	いすみ市日在 1477	0470-62-2613	0470-63-0129
国吉屋不動産(株)	いすみ市日在 2410	0470-62-4141	0470-63-1333
(株)慶興総建	いすみ市大原 10095	0470-62-0354	0470-62-8508
正二土地	いすみ市大原 1318	0470-63-0001	0470-63-0046
住友総館(株)	いすみ市深堀 353	0470-63-0099	0470-63-0100
(株)太公望商店	いすみ市日在 2411	0470-62-2500	0470-62-2570
(有)大栄不動産	いすみ市大原 7806-1	0470-62-3471	0470-63-1787
大志プロパティ(株)	いすみ市日在 2425-30	0470-63-1171	0470-63-0100
(株)東昭開発	いすみ市日在 2133-2	0470-63-1580	0470-63-0683
(株)日商	いすみ市大原 8749-5	0470-63-1052	0470-63-1012
(有)ビゼン	いすみ市日在 1875	0470-63-0767	0470-63-0727
(有)平成不動産	いすみ市大原 9709-1	0470-63-0003	0470-63-9880
(有)房総興産	いすみ市若山 1192-6	0470-63-0566	0470-63-1503
明正不動産(株)	いすみ市若山 114-1	0470-63-1811	0470-63-1864
(株)新清ハイツ	いすみ市弥正 267-4	0470-86-4590	0470-86-4593
(有)高師工務店	いすみ市弥正 486-1	0470-86-5400	0470-86-5401

「田舎に住みたい!…でもどうしたらいいの?」を解決します

移住相談案内所 いすみ暮らしサロン



「いすみ」をもっと良く知りたい方、移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」へどうぞ!
「いすみ暮らし」のすべてにお応えします。移住、二地域居住を希望する方が抱くさまざまな不安に対し、地域の事情に精通した移住相談員が、自身の知識や経験を生かしながら相談に応じるとともに、各種地域情報の提供をおこないます。また、すでに市に移住された方にも、情報交換や交流の場として活用していただけます。

いすみ暮らしサロンへのご案内

住所 千葉県いすみ市岬町長者 549
(いすみ市役所 岬庁舎)

電話番号 0470-87-9815

開所日 日曜(祝祭日、年末、年始は除く)

開所時間 10:00~15:30

※なお、平日のお問い合わせについては、
いすみ市役所総務部 地域プロモーション室
☎0470-62-1332 までお願いします。



~「いすみ暮らし」はWEBサイトでも、市役所でもご相談に応じています。~

〒298-8501 千葉県いすみ市大原 7400-1 いすみ市役所総務部 地域プロモーション室
TEL:0470-62-1332 FAX:0470-63-1252 E-MAIL:uji@city.isumi.lg.jp

◎いすみ市ポータルサイト
<http://www.city.isumi.lg.jp/>

◎いすみ暮らし情報サイト
<http://www.uji-ismui.com>